

金が要求されました。必要の経費だけではなく、また2万円要求されました。私はとても失望しました。友達だから手伝ってくれるじゃないか？やっぱり友情より金のほうが大事だと思いました。でも二人はここまでではない。今でも連絡しています。これも日本人の考え方だと思いました。友情は友情、金は金。また勉強になりました。

これは、私は日本で遭って、代表的なことであります。日本は社会が進んでおり、安定です。人は勤勉であり、開放的です。でも、日本はもう一つ違う顔を持っています。外国の影響を受けているのに、外国人を排除します。日本人は礼儀に正しいのに、人情に薄い。この全く違う二つの顔はまさしく日本の魅力であります。これは、私の個人的な考えであります。正しいか分かりませんが、皆さんに聞いていただいて、ありがとうございました。

### 03公開講座「言語」のご案内

愛知大学言語学談話会主催・  
愛知大学語学教育研究室共催

<2003年度後期>

場所：ナオリ会館

(461-0002 名古屋市東区代官町27-5。052-935-6011)  
(地下鉄桜通線「車道」下車、1番出口より徒歩7分：  
市バス52系統[栄～新守山]・121系統[栄～砂田橋  
經由上飯田]「水筒先」停留所下車徒歩3分)

時間：午後2時半～4時半

聴講無料

10月4日(土)

「言語学という思想 ソシユールとサビア」

高橋 秀雄(愛知大学国際コミュニケーション学部教授)

11月8日(土)

「看板広告における経路探索の方法」

片岡 邦好(愛知大学法学部助教授)

12月6日(土)

「文法と文脈 談話情報が動機づける統語構造」

須田 淳一(愛知大学短期大学部助教授)

2004年1月10日(土)

「ドイツ語と英語の並列関係について」

トーマス・M・グロース(愛知大学国際コミュニケーション学部教授)

#### 編集後記

今回は特集を設定していないが、中国とフランスに関する記事が二編ずつ、韓国と英国が一編ずつの計六編、それもアジア三編とヨーロッパ三編となり、バランスが良くなった。

春学期もあとは定期試験を残すのみである。約二カ月に及ぶ夏期休暇中に、外国語から遠去かっていると、折角の春学期中の学習が水泡に帰すこととなる。できれば外国語のインプット(読むことと聞くこと)は毎日続けよう。語学は才能ではなく、単に持続力である。

(M.T./S.A.)